

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：32304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02477

研究課題名（和文）インドにおける「衛生安全な新しい日本型学級経営モデル」の開発

研究課題名（英文）The Development of "New Japanese Models of Classroom Management for Health and Safety" in India

研究代表者

石川 美智子 (Ishikawa, Michiko)

東京福祉大学・心理学部・教授

研究者番号：30733258

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、日本の学級経営を参考にしたインドにおける「衛生安全な新しい日本型学級経営モデル」の開発である。第1に、インドと日本の学校保健衛生に関わる分析と教員への質問紙調査を行う。第2に、「多様性を認める」「衛生安全」な日本型教育のモデルの教材を作成しインドの児童生徒に学級経営の実践を行う。第3に、インドの児童生徒に実践前後に質問紙調査を実施して、モデルの妥当性を検討する。本研究の結果、感染症拡大の中、健康安全な生活・集団の協働という日本型教育を活用して、インドの学校の衛生安全を促進する。また、日本型教育トランスファー・国際学校衛生安全教育の基礎研究となる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1) インドと日本の学校保健：インドと日本の混合型学校保健教育プログラムを開発することにより、児童生徒の身体的、精神的、社会的発達を高めるため可能性がある。特に日本の学校保健の教材は、写真やイラストが使用されて、わかりやすいものになっているため、有効利用が期待される。

(2) インドにおける日本型教育学級経営の実践：実践を踏まえ、カースト制度を超えた集団形成が可能となるであろう。また、インドの児童生徒たちは、インドにおける日本の教育の可能性を感じていることが示された。これらのことから日本型教育は、インドだけでなく、他のアジア諸国にも発展の可能性はある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to develop a "new Japanese-style classroom management model that is hygienic and safe" in India, based on Japanese classroom management. First, we will conduct an analysis of school health and hygiene in India and Japan and conduct a questionnaire survey of teachers. Second, we will create teaching materials based on a model of Japanese-style education that "recognizes diversity" and "hygiene and safety," and practice classroom management for Indian students. Third, we will examine the validity of the model by conducting a questionnaire survey of Indian students before and after the implementation. As a result of this research, we will utilize Japanese-style education of healthy and safe living and group collaboration to promote health and safety in Indian schools amidst the spread of infectious diseases. It will also serve as basic research for Japanese-style educational transfer and international school health and safety education.

研究分野：日本型教育・初等中等教育

キーワード：日本型教育 学校保健教育 多様性 インド ミックスモデル 日本型教育トランスファー

1. 研究開始当初の背景

国連はSDGs(持続可能な開発のためのアジェンダ)をあげ経済・社会包摂・環境の調和を掲げている。大国インドは、貧困層が多く医療水準が低い(山崎, 2020)。スマホの普及率は30%で、オンライン授業を受けられない児童が多い。教育格差を無くすためにも、衛生安全な新しい学級経営が必要である。インドの教員は、「ルールと責任を明確にし、教科を教えることに集中」している(Ishikawa et.al, 2020c)。日本の教員は、三密予防・手洗い等の指導も行う。また、危機における個や集団の努力の奨励、児童一人ひとりを理解して全学校閉鎖からの早期再開を目指した学級経営を行った。インドの学校を衛生安全なものにするために、学校閉鎖期間が短かった日本型の新しい学級経営が参考になると考える。日本の学校保健の参画は、カンボジアの行政担当教員を対象としたものがある。本研究では、児童を対象とした衛生安全な学級経営に焦点を当てる。このようなアプローチは他に見当たらない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の学級経営を参考にしたインドにおける「衛生安全な新しい日本型学級経営モデル」の開発である。

- (1) インドと日本の学校保健の実態を明らかにする。
- (2) インドにおける学級経営について「多様性」「衛生安全」に配慮した日本型教育の実践をする。
- (3) 日本型教育トランスファーモデルの開発を行う。

3. 研究の方法

カウンターパートナー:

インド連邦政府立ポンジェシャリー大学(ポンジェシャリー)、キリスト(バンガロール・インド)大学

(1) インドと日本の衛生安全教育・学校保健

インドと日本の衛生安全教育・学校保健に関する先行研究を、改めて詳細に吟味し、その特徴・問題点を把握する。その上でインドと日本のそれぞれ30名の教員への質問紙調査を、学校保健及び衛生安全教育の視点で行い分析する。

(2) インドにおける「多様性」「衛生安全」に配慮した日本型教育の実践

多様性を認める日本型教育、衛生安全な新しい日本型学級経営の指導演を作成しインドの児童生徒に実践を行う。インドの児童生徒に実践前後に質問紙調査とワークシートを実施して、モデルの妥当性を検討する。

(3) 日本型教育トランスファー開発

インドにおける日本型教育の指導演作成過程を分析し、日本型教育トランスファーの開発方法を検討する。なお、指導演作成にあたっては、日本人研究者(元高校教員)とインドの若手研究者で検討する。検討後、インドの大学生10名に修正等を求める。インドと日本の研究者が、インドで授業をするために、どのように考え、工夫したか、その変化のプロセスを探求した。

その上で、最終年度は3年間の成果の公表と共有を国内外の心理学会に対して積極的にを行う。また、学会以外にも両国の大学で国際シンポジウム・資料印刷等を行いモデルの有効性を広める。

4. 研究成果

本研究の成果と課題を3点に分けて整理する。

(1) インドと日本の学校保健

インドの教員は、学校保健の重要性を認めていた。しかし、学校保健が行われていない学校が多いため、無回答の教員が多かった。また、専門家が少なく、学校保健を促進する役割に校長等や学校看護師や医師をあげていた。大多数の学校は年間健康教育計画を持っていなかった。中には、教員による学校保健教育を否定する意見や学校再開への恐れを感

じている教員もいた。インドでは学校保健について法整備も必要であろう。

日本の学校保健には、150年の歴史が必要であった。日本の教員は、学校保健の重要性を認め、さらに、パンデミックにおける学校教育の役割の重要性も認めていた。しかし専門性や時間不足を感じている教員もいた。日本の教員は、学校保健を促進する養護教育・保健体育・家庭科教育・学級担任など多様な教員をあげていた。また、多面的な学校保健年間計画があった。その取り組みとして保健指導の教育・健康診断の管理と教科指導・保護者との生活チェック・児童生徒の活動などをあげた。また、多面的な学校保健の記録や感染症予防教育が行われていた。

期待されること

インドと日本の混合型学校保健教育プログラムを開発することにより、児童生徒の身体的、精神的、社会的発達を高める可能性がある。特に日本の学校保健の教材は、写真やイラストが使用されて、わかりやすいものになっているため、有効利用が期待される。このようなインドでの学校保健サービスの実践によって、家庭・地域社会・医療の専門家という連続的なつながりができることが期待される。日本においては、教員以外の学校医・学校薬剤師等専門家の活用が期待される。

(2) インドにおける日本型教育学級経営の実践

まず、日本とインドのつながりについて授業を行った。その後、「多様性」に配慮した日本型教育を行った。授業では、「インドの学級・支えあうクラス」をテーマに実践した。障害のあるインドの有名人を紹介し(写2)、そのうえで友達のいいところをさがす授業を行った(写3,4)。



写1 シャイな女子生徒



写2 障害のあるスターを知っていますか？

その結果、1時間目の授業では、「日本は平和教育にとっても良い場所だと思います」「日本の教育はインドにとって非常に良い影響を与え得る」と15人(30%)の児童生徒がインドにおける日本教育の可能性について言及した。また、インドの児童生徒は、教育、行動力、自信と信念、ポジティブ思考、家族や友人のサポートなどを「強み」として挙げた。

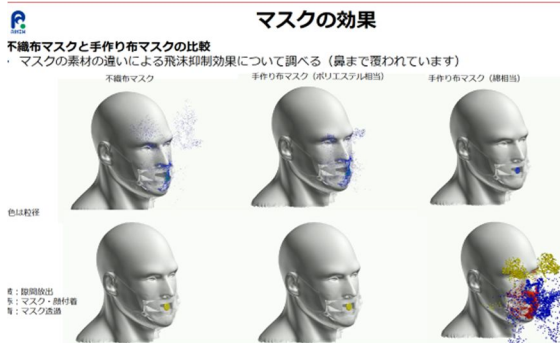


写3 友達のいいところ探しの木



写4 校長先生から友達を大切に助言

「衛生安全」に配慮した日本型教育として、インド私立学校の児童生徒 94 名（実践群 50 名、実践しなかった群 44 名）を対象に、COVID-19 感染症予防のためのマスク・換気・手洗いの授業を行った。マスク認識尺度と生徒の手洗いスキルの評価に関する質問紙調査とワークシートを分析した。また、不織布・布・シールドマスクの飛沫についても検討した。



写 5 理研と神戸大学・豊橋技術科学大学



写 6 マスク検討後の不織布マスクの配布

その結果、児童生徒は、3 種類のマスクのうちシールドマスクが最も飛沫の拡散を防ぐと考えたが、理研の実験によって、不織布マスクが良いことを知った(写 5, 6)。授業を実践した児童生徒は、マスク認識尺度が有意に高くなり、マスクの有効性を正しく理解することができた。



写 7 実験:石鹸の散布実験後.手洗いダンスをしたい生徒の声!!



写 8 手洗い

児童生徒の手洗いスキルの評価は、有意差はなかったが高くなった。そして、授業後のワークシートには「作業の前後には必ず手を洗い、健康で安全な生活を送りましょう」「手洗いは、私たちの生活、そしてあなたの生活に最も大切なものです」「きちんと手を洗いましょう」「この授業で日本の教室の文化や病気の予防について理解することができました」「このセッションに参加できてよかったです」等 50 名(100%)の記載があった。また、「日本の教育は私たちの個性を伸ばす」「インドを豊かにする」と感想文を残した。

期待されること

「多様性」に配慮した授業で、児童生徒たちは自分の強みや快適な教室について十分に言語化した。次に、彼らはそれらを友達のいいところ探しのもとで視覚化した。自分の強みを言語化することが、教員の児童生徒理解につながる。友達の強みを可視化することは、児童生徒同士の理解にもつながる。今後はこうした実践を踏まえ、カスタム制度を超えた集団形成が可能となるであろう。また、インドの文化を踏まえた衛生安全な日本型教育も一定の効果があつた。さらに、インドの児童生徒たちは、インドにおける日本の教育の可能性を感じていることが示された。これらのことから日本型教育は、インドだけでなく、アジア諸国にも応用・発展の可能性がある。

(3) 日本型教育トランスファーの開発方法

相手国を理解するための共同授業研究

日本人研究者とインドの若手研究者によるインド版日本型教育の指導案開発後、インドの

大学生 10 名に修正項目等求めたが、全員が修正ないと答えた。それを受けてインドの児童生徒に実践を行った。日本人研究者とインドの若手研究者によるインド版日本型教育の指導案作成過程の分析の結果、インドの若手研究者は「インドの一部でなく、日本とインド全体がつながり、話すことが大切である」と指摘している。さらに、インドの若手研究者は「他国(中国)を持ち込まないほうがいい。インドと日本についてだけ言えばいい」と指摘する。日本人研究者は、インドの研究を行っており、多言語・多様性の国であることは理解していた。また、中印国境紛争が起きたことも理解していた。しかし、実感していなかったと思われる。インドの若手研究者の指摘によって、日本人研究者は、異なる文化や歴史を持つ人たちの前で授業をするということの重責を経験した。他国の理解と実践の乖離を防ぐためにも、教育トランスファーにおける当該国の人との協働による授業研究は非常に重要である。

共通の価値観の重要性を見極める

2022 年 9 月指導案作成過程でインドの若手研究者は、「現在インドの人は COVID-19 の影響を感じていない。必要があるのか？」と述べている。そして、インドでは学校保健教育がまったく行われていない状況であった (Ishikawa et al., 2022)。学校保健教育は、公衆衛生の普及という観点からも「共通価値の尊重」という G7 倉敷宣言(2016 年)に当てはまる。教育トランスファーにおいては、教育の押し付けにならないように、共通価値の重要度に鑑み、目的や教材等を丁寧に検討する必要がある。

集団を意識した日本型教育目標の必要性

インドの教員は、「ルールと責任を明確にし、教科を教えることに集中」している (Ishikawa et al., 2020c)。つまりインドの教員は、教科指導中心の学力育成のみの教育を行っている。インドの教員は授業で集団を扱うことへの違和感があると思われる。「集団主義 没個人 非民主的」のイメージを払しょくするためにも、集団の協調の良さを伝える目標や教材が必要であろう。

期待されること

相手国を理解するための共同授業研究、共通の価値観の重要性を見極めること、集団を意識した日本型教育目標の必要性等によって日本型教育トランスファーの可能性が高まった。今後、日本型教育の強みをいろいろなテーマや国で実践することが必要であろう。それによって、日本の教育にも、他国の強みを生かす機会が増えるであろう。また、今回の研究で、学校医・学校薬剤師等の活用が示された。日本の教育の改善の一助にもなる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 3件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Michiko Ishikawa, Hitomi Kuwayama	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 The School Hygiene Education in Japan: Focusing on the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Asia Pacific School Psychology	6. 最初と最後の頁 130-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 石川美智子	4. 巻 39
2. 論文標題 COVID-19パンデミックによる自粛の長期化における大学生の生活と適応	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋産業大学論集	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michiko Ishikawa , Panch Ramalingam , Kamal Uddin , Hitomi Kuwayama	4. 巻 38
2. 論文標題 The Hygiene Education at Schools in India and Implication for Its Improvement	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Nagoya Sangyo University	6. 最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Michiko Ishikawa, Miyuki Matsumoto, Sadananda Reddy, Tony Sam George, Panch. Ramalingam	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 A Qualitative Study on School Health Education in Japan and India	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 INSPA Journal of Applied and School Psychology	6. 最初と最後の頁 20-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 石川美智子	4. 巻 14(1-2)
2. 論文標題 日本型教育の視点から見たスペインの準公立学校の研究	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東京福祉大学・大学院紀要	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計16件(うち招待講演 13件/うち国際学会 13件)

1. 発表者名 Ishikawa Michiko, Miyuki Matsumoto, Hitomi Kuwayama
2. 発表標題 Japanese and Indian Teachers' Perceptions of the Efficacy" of Inclusive Education .
3. 学会等名 The Asia Pacific School Psychology Association (APSPA) 2nd International Conference on Contemporary Challenges and Advancements in School Psychology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ishikawa Michiko・Miyuki Matsumoto・Hitomi Kuwayama
2. 発表標題 Japanese and Indian teachers' educational guidance of inclusive education in regular classes and teacher efficacy .
3. 学会等名 ISPA 2021 Nicosia, Cyprus 42nd Annual HYBRID Conference of the International School Psychology Association (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Michiko Ishikawa, Hitomi Kuwayama
2. 発表標題 Greeting: History and future of Japan in India .
3. 学会等名 5th CounPsy International and 11thInSPA International Hybrid Conference on School Psychology
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Michiko Ishikawa
2. 発表標題 Connection between Japan and Mauritius: What you can do in Japanese school psychology
3. 学会等名 5 APSPA International Conference on the Efforts of G20 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Panch. Ramalingam, Michiko Ishikawa
2. 発表標題 Impact of Japanese School Psychology Training Programmes in India
3. 学会等名 1 st International Conference on Applied Psychology University of Sistan and Baluchestan, Iran (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michiko Ishikawa Kaori Hirakue Panch. Ramalingam
2. 発表標題 Possibilities of Japanese-style education and school psychology
3. 学会等名 28th International and 59th National Conference of Indian Academy of Applied Psychology, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Michiko Ishikawa, Panch Ramalingam, Dharma Rajenjdran
2. 発表標題 Educational and school psychology in Japan and India and the future:Based on classroom management that recognizes diversity.
3. 学会等名 Asia-Pacific Association of School Psychologists
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michiko Ishikawa
2. 発表標題 Connections between Japan and Mauritius: What Japanese school psychology can do
3. 学会等名 5 APSPA International Conference on the Efforts of G20 : School Psychologists Connec (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Panch. Ramalingam, Michiko Ishikawa
2. 発表標題 Impact of Japanese School Psychology Training Programmes in India
3. 学会等名 1 st International Conference on Applied Psychology University of Sistan and Baluchestan, Iran, Nov 29 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michiko Ishikawa, Panch Ramalingam, Dharma Rajenjdran
2. 発表標題 Educational and schAPSPA International Conferenceool psychology in Japan and India and the future:Based on classroom management that recognizes diversity.
3. 学会等名 APSPA International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michiko Ishikawa Kaori Hirakue Panch. Ramalingam
2. 発表標題 Possibilities of Japanese-style education and school psychology
3. 学会等名 28th International and 59th National Conference of Indian Academy of Applied Psychology, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1 . 発表者名 Michiko Ishikawa, Miyuki Matumoto, Hitomi Kuwayama
2 . 発表標題 School Psychology and Inclusive Education that Recognises Diversity
3 . 学会等名 3rd APSPA International Conference 2022. (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Michiko Ishikawa, Miyuki Matumoto, Hitomi Kuwayama, Tomoko Suzuki, Panch Ramalingam
2 . 発表標題 Implementation of School Health Education for COVID-19 Prevention in India: Based on Japanese-Style Education
3 . 学会等名 12th InSPA International Conference “Meeting the Challenges in Schools: Towards Atmanirbhar (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Michiko Ishikawa, M.A.M Sameem, Miyuki Matsumoto, Md. Kamal Uddin, Panch. Ramalingam, Hitomi Kuwayama
2 . 発表標題 The potentials and challenges of a South Asian version of Japanese-style education. Based in Pondicherry and Bangladesh.
3 . 学会等名 4th Asia-Pacific Association of School Psychologists (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Michiko Ishikawa, Hitomi Kuwayama, Panch. Ramalingam, Tomoko Suzuki
2 . 発表標題 What do teachers and staff think about school health education?: A qualitative study in Japan and India
3 . 学会等名 5th CounPsy International and 11thInSPA International Hybrid Conference on School Psychology (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1. 発表者名 Michiko Ishikawa, Hitomi Kuwayama
2. 発表標題 Greeting: History and future of Japan in India
3. 学会等名 5th CounPsy International and 11thInSPA International Hybrid Conference on School Psychology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Miyuki Matsumoto, Michiko Ishikawa, Sadananda Reddy	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Mental Health - Preventive Strategies	5. 総ページ数 15
3. 書名 Mental Health Issues of Japanese Elementary School Teachers: The Effects of the Japanese Classroom Management Style	

1. 著者名 Michiko Ishikawa,	4. 発行年 2023年
2. 出版社 PUDU BOOK India	5. 総ページ数 309
3. 書名 Classroom Management and Teacher Education in Japanese-Style Education: International Comparative Psychological Perspectives from Japan and India(The Japanese version was made into English and distributed overseas)	

1. 著者名 石川美智子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 パプファンセリフ	5. 総ページ数 240
3. 書名 日本型教育における学級経営の実践的理解と教師教育-日印国際比較心理学の知見(日本語版)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

【本研究実践動画】
 インド共和国で学校保健教育を実施しました！
<https://www.youtube.com/watch?v=TQlVaM-pjYs>
 【東京福祉大学広報】
 Voyage 大海へ 2024.43号3「国際シンポジウム 日本とインドの教育・学校心理学と今後」

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 みゆき (Matsumoto Miyuki) (20883276)	名古屋大学・教育基盤連携本部・特任准教授 (13901)	日本型教育の先行研究レビュー

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 修 (Suzuki Osamu)	名古屋産業大学・キャリア支援課 (33935)	
研究協力者	村田 朝子 (Murata Asako)	半田市教育委員会・保育士	
研究協力者	水野 松男 (Mizuno Matsuo)	足立区教育委員会・特別支援員	
研究協力者	桑山 仁美 (Kuwayama Hitomi)	愛知県立常滑高校	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	濱田 ひとみ (Hamada Hitomi)	東京福祉大学 (32304)	
研究協力者	牛山 優菜 (Ushiyama Yuna)	東京福祉大学 (32304)	
研究協力者	橋田 直樹 (Hashida Naoki)	東京福祉大学 (32304)	
研究協力者	山口 藍 (Yamaguchi Ai)	東京福祉大学 (32304)	
研究協力者	鈴木 ともこ (Suzuki Tomoko)	オーロビル	
連携研究者	柴原 直樹 (Shibahara Naoki) (00388878)	東京福祉大学・心理学部・教授 (32304)	
連携研究者	阿部 裕子 (Abe Hiroko) (90825803)	東京福祉大学・教育学部・講師 (32304)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 3rd APSPA International Conference 2022	開催年 2022年～2022年
---	--------------------

国際研究集会 12th InSPA International Conference “Meeting the Challenges in Schools: Towards Atmanirbhar Bharat	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 4th Asia-Pacific Association of School Psychologists	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 5th CounPsy International and 11thInSPA International Hybrid Conference on School Psychology	開催年 2022年～2022年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インド	Pondicherry University	CHRIST (Deemed to be University)		
バングラデシュ	University of Dhaka			
スリランカ	South Eastern University of Sri Lanka			
インド	Pondicherry University	Christ University India		
バングラデシュ	University of Dhaka			
イラン	Sistan and Baluchestan			